

「全国で待っている人たちのために…」 地震後すぐ出荷にこぎつけた伝統酒

「赤酒がないとお正月が始まらない」。熊本地震直後、「瑞鷹」には全国のお客さんからそんな声が相次ぎました。とはいえ被害は深刻で、約100棟の建物の7割近くが被害をうけたほか、貯蔵中の原酒が一部使用不能や廃棄せざるを得ない状況に。さらに製品の損失は一升瓶換算で7万8000本を超えました。当時を振り返り吉村常務は、「とくに大型の木造建物と土蔵造りの建物の損傷がひどく…とても酒を出荷できる状況になかったですね」と話します。それでも阿蘇の伏流水を源とした自社の地下水は湧き続けており、地域の方に水を配りました。そして、復旧作業をしながら製造をすすめることに。看板商品の「赤酒」は、地震から3ヵ月後(7月末)には出荷再開にこぎつけ、10月には清酒づくりをスタートしました。「お酒としてだけでなく料理酒としての需要も大きい赤酒は、熊本の伝統酒です。今思うと、赤酒を待ち望むお客さんたちの声に勇気づけられ、酒づくりを再開できた気がします」。



現在、建物の6割～7割は復旧が完了。今も復旧を進めながら製造を行なっている



川尻への愛情、いっそう深く 地元の水・米・人の手で醸す 酒を目指して

最近の「瑞鷹」はというと、今年10月に本蔵内の「西田蔵」と「東蔵」の代替施設である「平成西蔵」と「製品倉庫東棟」の建て替え工事が終了し、竣工したばかり。また「芳醇純米酒 瑞鷹」が「全国熱燗コンテスト2018」で最高金賞を受賞するなど、嬉しいニュースも届いています。さらに地震後は、今まで以上に酒屋さんや酒蔵とのつながりが深まり、「チーム熊本」としての意識も高まっているとか。「伝統酒をつくり続けられることに感謝するとともに、改めてその使命感を感じています」と吉村常務。一方で、守るべき伝統は守り、変えるべきところは変えていきたいという決意も新たにしています。川尻で育てた新品種の酒米・華錦(はなにしき)を使った酒づくりなどは、同社の新たな挑戦のひとつ。今後は、水も米も100パーセント川尻産を目指した酒づくりに取り組みたいと語ってくれました。



「川尻の風土を生かした酒づくり」への挑戦は始まったばかり

YOUNG POWER ~若者の力~

高校生の想いが未来を願う応援ソングへ

現在、千原台高校(西区島崎)のホームページでは、熊本地震からの復興を応援するオリジナルソング『#生きる』熊本地震」を聴くことができます。「当たり前 当たり前 幸せはいつもここにある」「じゃあねって明日また会おうね」…生徒たちの真っすぐなメッセージとともに、被災地の様子や生徒たちの写真がちりばめられ、思わず胸があつくなります。この歌は、県高校生徒商業研究発表大会の作品制作のひとつとして取り込まれました。川口能章先生かわぐちよしあきの指導のもと、先生の教え子であるシンガーソングライターみかのMICAさんがボランティアで協力し、一緒につくりあげました。

MICAさんは、「詞を書くのは手紙を書くことと同じ。経験したことを誰かに伝える気持ちで書くように伝えました」と話します。また生徒たちは、「当たり前前の日常の大切さや感謝の気持ちを歌詞にこめました。地震を経験していない人たちにこそ聞いてほしい」と語ってくれました。

千原台高校情報科経営情報コースの皆さん

高校生目線で描く、熊本の希望ある未来を願った曲づくり「未来応援ソング」を目指して、作品制作に取り組んだ。今年7月に行われた県高校生徒商業研究発表大会で歌声を披露



親や知人など身近な人たちに聞き取りをして感じた「何気ない日常の大切さ」を歌詞にして思いをつづった



ボランティアで全面協力したMICAさんは川口先生の教え子で旧知の仲。忙しい仕事の合間をぬって毎週学校に通い、曲づくりに協力した

もしもの時を想定した防災意識の向上を

「熊本地震の被害が比較的少なかった地域で防災の意識を高めてもらおうと、母校の天草高校で防災ワークショップを開催したのが最初です」と話すのは、県大防災プロジェクトユニットの代表である熊本県立大学総合管理学部4年の生田健誠さんいくたけんせい。熊本地震後、避難所運営に携わった経験を活かした防災啓発の活動を行っています。ワークショップではクロスロードゲームというツールを活用。「避難所にペットを連れて行く?」「あなたが行政職員だったら」など、さまざまな視点の質問に対してグループ内で意見を出し合い、防災意識を高めます。

これまで熊本市内の親子向けや、天草市や水俣市、山都町の学校などで開催。今年度で卒業する生田さんは、結成当初から活動を共にする総合管理学部2年もりかみよしのぶの森上由伸さんに想いを託し、継続した活動を行う組織づくりを目指して活動しています。

県大防災プロジェクトユニット

熊本県立大学の学生が中心となり、平成29年に結成。地域の防災意識を高める活動を行っている。今年3月には宮城県仙台市で行われた「学生防災サミット」に招待された



メンバー19名の中には高校生も在籍し、活発な活動を行っている

「クロスロード」では災害時を想定したさまざまな質問に対し、「Yes」か「No」を選択。さまざまな意見が共有できる



市民や学生向けの防災ワークショップを開催。依頼は随時受付中
kendai.bousai.project@gmail.com

現代表の生田さん(右)と、二代目を引き継ぐ森上さん



『#生きる』熊本地震」はこちらから聴けます! [千原台高校](#) [検索](#)